

レギュレーションの主な変更点について（赤字は今年度追記、黒字は昨年度）

■ カヌー最大重量を 100kg 程度以下に変更および 100kg 超カヌーへの評価点加点廃止

海の森水上競技場には彩湖のように浅瀬がありません。スロープやポンツーンからカヌーを浮かべてもらいますが、持ち運び等安全確保の観点から、カヌーの最大重量を 150kg 程度から 100kg 程度に変更しました。重量の変更に伴い、事前審査資料の重量加点措置を廃止しました。

なお、最大重量の目安を 100kg に下げること船体が肉薄な傾向となりますので、レース前に破損しやすくなります。破損すると出場できなくなりますので、カヌーの構造や補強方法を十分検討してから製作に臨んでください。

■ 浮力体の取り付け確認の強化

海の森水上競技場はボート・カヌー会場としては国際水準の漕艇場であり、コースブイ保持のため、φ 10mm 程度のコースロープが水面下 1.5m 程度に張られています。万が一コースロープを切断してしまうと、その後の大会運営（8 月は関東インカレなど予定が詰まっています）に支障をきたしてしまいます。

そこで、カヌー沈没による切断を防止するため、「カヌーを水面に浮かべたうえで内部を水で満たしても浮力体が外れない」ことを事前に確認していただくことにしました。加えて、1 レースごとに浮力体とブイの取り付け状況を確認し、外れている（または外れそうな）場合には再取り付け（または補修）をしてもらいます。取り付けることができない場合には出場停止とします。

■ 安全なレース運営に向けた管理強化

海の森水上競技場からの安全上の強い要望がありました。従来は下の写真のような浸水状況でも浮力体を取り付いているので沈没はないと判断し、レースを続行していましたが、今年度からはカヌー内部に浸水が発生し、喫水線がカヌー高さと同程度になっている場合にはレース継続中止を指示します。

また、レース後の inout ポンツーンにて大きな浸水が確認された際には、カヌーを陸に上げて破損状況を確認し、レース続行の可否を判断することとします。



■ ライフジャケット着用およびウォーターシューズ着用について

カヌー漕ぎ手のみに、学会からライフジャケットを貸与します。補助者のライフジャケット着用判断は各校に一任します。ウォーターシューズは漕ぎ手および補助者全員が着用してください。カヌーの進水や乗降時の安全管理は、各校の管理者が徹底して行ってください。学会幹事も周辺の状況を確認しながらサポートしますが、カヌーの取り扱いは各校の責任となります。

■ 大会当日の学生の安全管理および行動管理

誠に残念ではありますが、昨年度の大会において、一部の学生の行動が管理されておらず、施設管理運営者である海の森水上競技場から学生の問題行動を強く注意をされるという事例が発生しました。また、熱中症疑いの事例も発生しました。学生の行動管理、安全管理は各校の責任によるところとなりますので、改めて教員からの指導をお願いいたします。